



連携型認知症疾患医療センター

認知症の理解のために（中編）

連携型認知症医療センター長 藤本直規

3) 中等度期の人の活動の場

“もの忘れカフェ”の参加者は、参加後、二年くらい経つと、やりたいことを思いつけず、みんなで活動の予定を話し合っても、散歩などの単純な活動しか思いつけなくなっていった。また、忘れることもより早くなり、活動が終わった頃には、何をやったかすっかり忘れてようになっていった。そこでスタッフたちは、参加者と活動の方針を話し合ったが、自主活動を続けたいという要望が強く、そこで、自主活動ができていた頃の活動記録を全部壁に張り出したところ、それをヒントに活動を思いつくようになった。また、活動の取り掛かりが早くできるように、朝、ダイルムに來られた時に、活動のきっかけになるように、手頃なカゴの中に、お手玉、けん玉、昔の漫画などと、花瓶に季節の草花などを置いておいたり、過去に作った料理の写真、自分たちで工夫した体操の手順の“巻物”などが飾ってある“小部屋”を用意した。そこに行けば、活動

のヒントを探すことができるのだ。

この時期になると、ご家族は、参加者が自分の家であることを忘れたり、食事を食べたことを忘れたりするようになったことに驚き、また、エアコンやテレビのスウッチ、携帯電話が時々使えないことに驚き、家の中で、時々、トイレの場所を忘れたりしていることに驚くようになる。もちろん、このような症状は当然ダイルムでも見られるが、“トイレこっち”のシンプルな張り紙やスタッフの声かけで、デイでの生活を乗り切っている。

調理に例えれば、メニューを示しても、その材料を選ばなくて料理を作ることができなくなった母親が、それでも一人息子に料理を作りたいというので、息子さんにメニューだけではなく、宅配で必要な材料を用意しておくようにお伝えしたら、その材料を使って、調理が続けられたようだ。

4) 高度期の認知症の人の活動の場

“もの忘れカフェ”参加後、数年が経つと、参加者は“記憶障害”や“実行機能障害”だけでなく、場所や物を理解できなくなる“失認”や道具を使えなくなる“失行”がひどくなると、活動への参加の仕方は、当然変わってきた。例えば、絵を描く課題があったら、もちろん、精緻な筆使いはできないので、画用紙に背景になる色を太い筆で塗る役割、材料を置いてある部屋“準備の部屋”から、大きな材料を運ぶ係でもいい、活動における“参加”の方法に優劣はないのである。

そんな時期には、家庭での生活はとても大変になる。排泄の感覚がはっきりと認識できない上に、トイレに行こうとしてもトイレの場所がわからず、トイレに辿り着けたとしても、便器の使い方がわからず、我慢できなくなって、洗面所の隅で排泄してしまうこともある。このような排泄の不具合は、進行した認知機能障害によるので、排泄のタイミングを計り、適切な排泄の誘導をするしかないのだが、本人が落ち着いた精神状態にあることが大切で、長年住んでいたグループホームで“放尿”が続いていたのだが、新しい施設長が管理的な関わりを変え、本人が安心できる環境に変わったので、“症状”は変わらないのに、その後はポータブルトイレへの誘導がほぼうまくいくようになった。生活の不具合の出現には、環境の影響が大切

なことは、同じように自宅であることがわからなくなった人、連れ合いさんの顔がわからなくなった人でも、外へ出て行こうとする人とそうしない人がいることでも知ることができる。

そして、周囲の状態が認識しづらくなることによって、周りの話し声、音、景色などのことがわからなくなり、そんな状態と折り合いがつかなくなり、周りとの関係を遮断したかのように、閉じこもるか、反対に、些細なことに怒りっぽくなっていく。不安が解消されずに、積み重なって行くと、怒りに変わっていくのは、認知症がなくても同様である。その“怒りっぽさ”の背景に、病気の症状があることを、本人に真正面から伝えたと、ある瞬間、それが伝わって、一瞬、我に戻る事がある。もちろん、その怒りをなくすることはできなくても、少しでも、もとの本人との、“言葉”と“気持ち”の通じ合いができると、向き合う気持ちがほんの少し、変わってくる。

調理のことでは、一人息子さんが介護していたお母さんは、調理はやめて宅配の食事に変え、テーブルを拭くとか、お茶の用意とか、できる役割を担ってもらうようになった。もちろん、お母さんがそれでも、食事を作ってやりたいとおもっていることは変わらないのだが…。

2. 当事者の活動の変化でわかること。

クリニックの診断後の“非薬物療法による治療的取り組み”での当事者の様子からわかることは、まず、発症からの時間が経つにつれて、残念ながら、症状は進行していくということである。そして、時々垣間見る“記憶障害”や“実行機能障害”による症状から、手先がうまく使えなくなる“失行”や視野が距離感がおかしくなる“視空間失認”などが新たに出現するが、それぞれの役割をする“脳の場所”が順番に機能を低下させていくことが、その背景にある。

これまでに述べた若年認知症者の変化は、主に、脳の“側頭葉”から“頭頂葉”に病変が広がる、アルツハイマー型認知症についてであったが、“前頭葉”が障害される前頭側頭型認知症、“後頭葉”や“脳幹部”が障害されるレビー小体型認知症などで、症状の始まり方と広がり方が異なることは、容易に理解される。

次号からは、若年認知症者のこれらの活動を思い浮かべながら、認知症について紹介していきたい。

NPO法人 もの忘れカフェ®の仲間たち

「ひとりひとりが当たり前で生活できる社会を目指したい」そのための集いの場です。



NPO法人 もの忘れカフェの仲間たちのシンボルマーク 《スノードロップ®》

6月8日(土) 守山駅前コミュニティーホールにおいて、2018年度通常総会・特別講演会が開催されました。

総会の成立要件である、対象人数の過半数を超えるご出席をいただき、提出案件5件について審議され、すべて承認されました。



《特定非営利活動法人 もの忘れカフェの仲間たち 2019年度 通常総会 ご報告》

2018年度末の会員数……………正会員／67名
……………賛助会員／14口

2018年度の事業実績（抜粋）

認知症の人及び発達障がいなどの精神障がいを持つ人等の就労及び交流、社会参加への支援に関する事業

「仕事の間」開催回数……………49回／年間
(延べ人数)

- ▶ 参加者総数……………1,708人
- ▶ 若年発症の認知症者……………928人 ▶ 軽度認知症者……………296人
- ▶ 高次脳機能障がい者……………77人
滋賀県高次脳機能障害支援センターとの連携
- ▶ 精神障がい等を持つ参加者数……………80人
- ▶ 社会に適応しづらい若者参加者数……………39人
働き・暮らし応援センター、滋賀県地域若者サポートステーションとの連携
- ▶ 老人会住民参加者……………18人
- ▶ 家族、支援者等ボランティア(会員)……………241人
- ▶ 生活困窮者……………29人



完成した製品



NPO法人 もの忘れカフェ®の仲間たち 研 修 会

NPO法人通常総会終了後、NPO法人もの忘れカフェの仲間たち理事長・連携型認知症疾患医療センター長 藤本直規が研修会を開催しました。



→ 研修会には、ご家族や施設からも多く参加され熱心に聞いておられました。



～講演会参加者の感想です～

- 分かりやすい内容でした。また次の機会にも参加したいです。
- この研修時間をもう少しとってほしいです。
- 研修を受けさせて頂けて良かった。改めて理解ができました。
- 「認知症の理解」ということで支援者のご家族と一緒に考えていきたいと思います。
- 具体例を随所にあげて説明をしていただき大変分かりやすく勉強になりました。
- 興味深い内容で勉強になりました。関わり方を気をつけたいと思います。
- 職場に持ち帰り生かせる内容がたくさんありました。スタッフと共有して実行してきたいと思います。
- 日々の接し方について考えさせられました。
- 先生と奥村さんの役割分担、コンビネーションが素晴らしく全く飽きることなく聞くことができました。

NPO法人 もの忘れカフェ®の仲間たち 連携型認知症疾患医療センター

あらためて 認知症の理解とケアについて ～本人が語ることから～

熊本クリニック連携型認知症疾患医療センター
NPO法人 もの忘れカフェ®の仲間たち
松本 恵子 奥村 典子

スライド写真および講演の中でお話をさせていただいた内容等につきましては本人、事務局の了解を得ています。

研修会資料 ①

人の精神機能とは (1986)

人格
自分らしくあるための
精神機能

これら知・情・意よりもさらに高度な精神機能である「人格」によって、一人ひとりがそれぞれ特徴づけられる。「自分らしくあるための精神機能」である

知
人としての精神機能

記憶、言語といった知能は、「人らしくあるための精神機能」であり、人が人として快適に暮らすための「知的道具」を使いこなす能力である

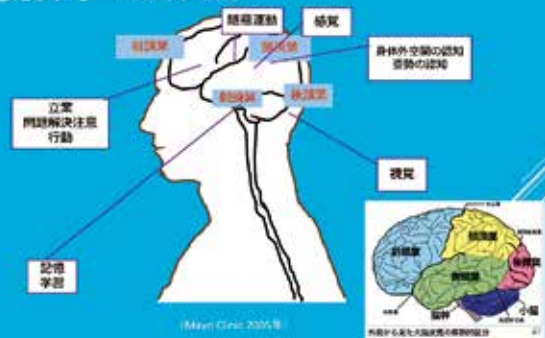
情・意
生きるための精神機能

「おいしいものを食べたい」「仕事したい」などの意欲を持つことで前向きに生きることができ、誰かが立っことや嬉しいことがあった時に、怒り、喜びといった感情がわき上がり、それを時と場所をわきまえながら感情表現できることである

病気が進行するにつれ、記憶の回路は壊れ、あるいは全くなくなる。しかし、人は記憶だけで生きているわけではない。人は、感情、想像力、欲求、意思と直観心を持っている。(Conen, Esdaerter 1986)

研修会資料 ②

脳の働きについて 大脳皮質の機能



研修会資料 ③

- ▶ **家庭外の IADL** 買い物 交通機関の利用 金銭管理
- ▶ **家庭内の IADL** 電話の使用 食事の準備 服薬管理
- ▶ **BADL** 入浴 更衣 排せつ 食事 移動 整容

生活障害の理解

初期から、徐々に病状が進行するにつれて、生活のしづらさが移行する

研修会資料 ④

行動・心理症状の理解



研修会資料 ⑤

病気の特徴を知り、ケアに活かす

進行したアルツハイマー型認知症に特徴的な症状とケア (抜粋)

パント症候群

- ・対象物を注視できない
- ・見えているのに触めない
- ・視野のよかものが見えない

- ・左側空間無視
- ・右側ばかりに注意が向く
- ・左側にあるおかずを気づかず、右側にあるおかずばかりを食べる

身体定位障害

- ・空間的な情報を視覚的に認知して、それらの情報をもとに自分の体を空間内に意図的に定位することができない
- ・丸椅子にはすわれない・人の膝の上に座る

視覚運動失行

- ・パントマイムの障害
- ・自動性意図性の解離の原因

研修会資料 ⑥

研 修 会 資 料 （ 抜 粋 ）

生活機能障害を乗り越えるケア（食事編）

負担になる判断材料を減らす
大皿からとるやり方はやめて、小皿にとる

見えていない視野に気をつける
片側が残れば器を回転する

【引用】
認知症ケアこれならできる50のヒント
宮村典子・橋本直樹
クリエイティブがむ（2013年）

研修会資料 ⑦

生活機能障害を乗り越えるケア（食事編）

自分の食事エリアを色で区切る
鮮やかなランチョンマットを敷く

鮮やかな色と一緒に食べてもらう
焼き魚などには紅生姜などで、アクセントをつける

【引用】
認知症ケアこれならできる50のヒント
宮村典子・橋本直樹
クリエイティブがむ（2013年）

研修会資料 ⑧

もの忘れカフェの活動から見つけたスタッフの心構え

私たちの役割は手がかり作りときっかけを作り→動き出しのケア
きっかけと手がかりを作ったらサッと引く→本人の力を引き出すケア

スタッフがこうあるべきと思いすぎない
→押しつけのケアからの脱却

何かをしなくてはという意識をなくす→「あげる」ケアからの脱却

活動の中で分からないことや思い出せないことがあったとしても、その人に自分でがんばって乗り越える力があると信じるすぐにできない部分に手を出さず、少しは「がんばって」もらってもいい。
→「強さ」を支えるケア

研修会資料 ⑨

もの忘れカフェの活動から見つけたスタッフの心構え

目で見ること、声や音で聞くこと、触れること
すべてを大切に、丁寧に考える→五感を大切にするケア

自主的な活動を邪魔しない
私たち自身が、環境の一つだと意識する→環境を大切にするケア

ひとまとめにしようと思わない
広く自由に動ける関わりは、信頼につながる→本人を信じるケア

できなくなったからやめるのではなく、できなくなったことを受け入れて、今、できることへと変えていく
プロセスでの工夫を惜しまない→可能性をあきらめないケア

研修会資料 ⑩

本人の言葉から

つたえたいこと
こんごも勉強して
アルツハイマーかな
あるように
— 努力して下さい。

自分たちもあきらめない。だからあなたたちもあきらめないでほしい

研修会資料 ⑪

終わりに

私たち自身も健康でなくてはいけません。
頑張るすぎにあまりに、自分のことを後回しにすることはよいことではないのです。
自分の限界を知り、悔しくてもそれを受け入れることが大切です。
息を吐いて、だめなときは、周囲の人に助けを求めてください。
一人で、頑張るすぎないでください。
できないことを認めることは、勇気ある行動なのです。
支援者である私たちも、同じ一人の人間なのです。

ありがとうございました

研修会資料 ⑫

会員募集

2019年度NPO法人もの忘れカフェの仲間たちの会員になり、一緒に活動しませんか？

若年認知症の人たちを中心とした「仕事の間」への参加研修等、様々なことについて、ぜひ 一緒に活動をしましょう。

入会ご希望の方は、藤本クリニックのホームページ(<http://fujimoto-clinic.net/cafe/recruitment.html>)より「会員申込み書」PDFをダウンロードしてFAXまたは郵送でお送りください。
年会費は下記口座へのお振込み、または、藤本クリニック受付へ直接ご持参ください。

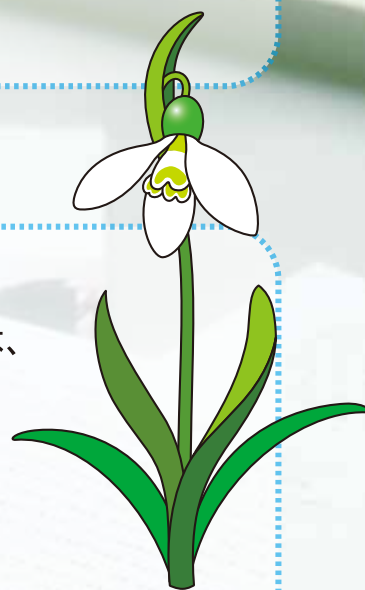
●年会費振込口座…滋賀銀行守山支店 普通預金 口座番号/395004
もの忘れカフェの仲間たち 代表 藤本直規

内職募集 急募!

若年認知症の人たちを中心とした「仕事の間」では、私たちにできる「内職作業」を探しています。
ぜひ、お声かけをお願いします。

●お仕事をいただける方は、下記へお願いします。

連絡先 **Tel 077-582-6032**
(担当 奥村まで)



NPO 法人 もの忘れカフェの仲間たちの
シンボルマーク 《スノードロップ》

編集後記 ~ monowasure ~

令和がスタートして早いもので数カ月が経ちました。

まだ、この響きに慣れないこともあります、新しい時代が始まったなあ実感する毎日ですね。

少し先を見据えて、今、できることを考えていきたいです。

令和元年もよろしくお願いいたします。

「そのうち」なんてあてにならないな。いまがその時さ by スナフキン



発行者：NPO もの忘れカフェの仲間たち／医療法人 藤本クリニック連携型認知症疾患医療センター
滋賀県守山市梅田町 2-1-303 Tel 077-582-6032

発行日：2019年7月25日